

令和6年度第1回仙台市科学館協議会会議録

日 時 令和6年5月17日（金） 14：30～15：30

場 所 仙台市科学館2階会議室

出席委員 有働恵子委員，加藤けんいち委員，河野裕彦委員，
佐藤美嶺委員，庄子裕委員，高田淑子委員，
長島康雄委員，松田佳歩委員（計8名）

欠席委員 磯部裕子委員，中田晋委員

事務局 加藤館長，加藤副館長，高橋庶務係長，石川主査，千葉主査
宮崎主任指導主事，沼尾指導主事，秋山指導主事

傍聴人 無し

議事要旨

1 開会

2 委員紹介・委嘱状交付

3 職員紹介

4 館長挨拶

5 会長及び副会長選出

○会長に長島康雄委員，副会長に庄子裕委員を選出

6 会長挨拶

○ 長島会長が議長となり会議を進行

○ 議長より議事録署名人に有働委員を指名

7 報告事項

（1）令和6年度仙台市科学館事業計画について

○宮崎主任指導主事から資料1により説明

（質問等）

○佐藤委員

学校教育事業について、科学館学習として中学生を対象に実施している実験学習などは、登校に不安や悩みを抱える生徒も「杜のひろば」（教育支援センターサテライト）の活動の中で受けることができているようだが、「杜のひろば」にも行けない生徒がこのような実験学習を受けることは可能か？

○宮崎主任指導主事

「杜のひろば」に通級できている生徒に関しては、こちらに来てもらうことで活動できているが、家にずっといる生徒へのアプローチは進んでいない。

○佐藤委員

実験を各家庭で行う事は難しいという声をよく聞くので、そのような機会がつく

られるといいかと思う。

○宮崎主任指導主事

科学館のホームページに実験動画を掲載しているので、ぜひ見ていただけるよう周知していきたいと思う。

○加藤委員

リニューアルにより、今まで以上に集客が見込めると思うが、どれくらいの入館者数を見込んでいるか。

○秋山指導主事

具体的な見込数字ではないが、代わりにゴールデンウィークの実績を踏まえると、平成30年が10日間で1万500人程度、平成31年が1万3000人程度で、今年度は1万4000人を超え概ねコロナ前の人数に戻ってきており、さらにリニューアルの宣伝効果もあることから、今までの上回る来館者を見込むことができるのではと考えている。

○加藤委員

このリニューアルの機会を活かして、入館者数増に向けてさらなるPRを行っていただきたい。

○高田委員

学校教育事業の科学館学習において、市内の学校の来館予定数は記載されているが、他県・他市町村の来館予定数はどれくらいか。

○宮崎主任指導主事

科学館学習は市内の中学生を対象としているため、県外や他市町村からの受け入れは行っていないが、展示学習は市外の学校でも希望があれば当館で作成しているワークシートを配布し、活用していただいている。配布した学校数までは調査していない。

○高田委員

「2 学校教育事業」の「(1) 科学館学習」は、実験指導を受けた学校数をあらし、他県や他市町村も含めて見学にきた学校の来館者数は別に統計を取り、参考資料「スリーエム仙台市科学館 事業概要」の数字等に反映されているということでしょうか。

○宮崎主任指導主事

そのとおりである。

(2) 夏休み特別展について

○沼尾指導主事から資料2により説明

(質問等)

○庄子委員

講演会はどこで開催するのか。

○沼尾指導主事

エントランスでの開催を予定している。

○庄子副会長

小林先生の講演だとかなりの集客が見込まれるが大丈夫か。

○沼尾指導主事

現在の予定として、エントランスに100席用意したうえで、その周りは自由に立ち見できる空間とし、4階の渡り廊下からも見るができることから3階周辺で150人程度を見込んでいる。また、入りきらない場合を想定し、中継にはなるが4つある2階の各実験室にライブ映像を流すことで、各部屋40名の合計の160名とし、全体で300名から400名程度としたいと考えている。

○長島会長

小林先生は素人でも知っている有名な方なので、抽選などで席がきまっている場合には別だが、かなり行列ができるのではないかと私も同じ心配をしている。

○沼尾指導主事

ポスターには車での来館はご遠慮いただくよう記載するとともに、ホームページにもポスターのPDFデータによる掲載を行うこと等により、想定人数におさまるようにしたい。

○長島会長

震災直後の特別展の時には行列が道路まで出来てしまい、近所からの苦情等をはじめ、科学館総出で対応しなければならないということもあった。怪我人などが出してしまうと、せっかくの企画に水を差すことにもなってしまう。恐竜好きの方が全国から来ると考えられるため、あらゆることを想定して準備した方がいいかと思う。

○松田委員

講演会の実施方法についてだが、オンラインでの映像公開などは想定しているか。冒頭に佐藤委員からも話のあった実験に参加できない生徒に対しても、簡単にオンラインで見ることができる環境があれば、いろいろな活用ができるのではと考える。

○沼尾指導主事

講演される方の許可等も必要であり、今回は想定していない。

○松田委員

やはり現地で見られるという臨場感が魅力なので直接見に来る方が圧倒的に多いと思われるが、オンライン配信を見たことで科学館に興味を持ってもらえるというきっかけにもなりえるかと思う。

○高田委員

子どもたちが展示を見てその次につながる情報提供があるといいのでは。例えば、化石展示をみて自分も化石を掘ってみたいと思ったときに、科学館で実施している

化石発掘イベントや、少し足を延ばせば歌津や岩手をはじめ市内にも発掘できる場所があるので、そういったところに一步踏み出して自分でやってみようという行動を促すような情報の提供があれば、科学館を飛び出しての実体験につながるのでは。

○沼尾指導主事

常設展示では県内の化石を網羅し、産地等も記載していることから、これらの展示との関連や紹介の仕方について考えるとともに、外での体験を促すため自然観察会などの案内等も合わせて行っていきたい。

○長島会長

4階にある象の骨格標本や復元模型等の展示は、国内において、茨城県自然博物館か仙台市科学館かといわれるくらいの規模と質をほこっている。今回の特別展は恐竜をテーマにしていることから、恐竜時代の後の大型哺乳類繁栄のへつなぎができれば、さらに特別展が活きてくると思う。また、仙台市科学館の4階リニューアルの宣伝にもなる。展示パネルをいくつか追加するだけでも効果的だと思うので、無理のない範囲で検討いただきたい。社会教育事業の中で、竜の口層などでの化石発掘体験なども行っているのも、そのような企画を実施していることをしっかり広報することも大切だと思う。高田委員が指摘された科学館の外でのさらなる活動を促すことにもつながるのではないかな。

○有働委員

特別展はどの年齢層をメインターゲットにしているのか。

大学でも、いろいろな市民の方を対象とする中でわかりやすく説明することはとても難しく、先ほど小さなお子さんでも楽しめるようにという説明もあったが、全国からの熱狂的な方々も含め様々な方が来館される中で、全体のバランスをどのようにとるのか。

○沼尾指導主事

今回の特別展では、一番人数が多いと思われる小学生をターゲットとしており、大人用のキャプションの他に、子供たちにもわかるようなキャプションも追加で用意する。熱狂的な方々も満足してもらえるような詳しい説明を用意した上で、低学年の子にとってもわかりやすい説明を加えるイメージ。

○有働委員

小学生に比べ入館者数の少ない中学生、高校生に対し、どのように訴えるか興味がある。

○宮崎主任指導主事

中学校にはチラシ等で告知を行う予定である。展示においては、大人でも楽しめるように詳細なキャプションを用意し、どの世代でも楽しめるよう目指している。

○長島会長

先日、大学生を連れて来館したが、実際に展示物を目の前にすると、まるで子供

のように積極的にいろいろな展示を見ていた。やはり、きっかけを作るということは非常に大事だと思う。

科学的に正確なものを作ろうとすると、丁寧な説明として専門用語を使わなければならない。一方、来館者は家族連れが多いことから、子供たちにとっては専門用語は難しいことが多い。大人も楽しめ、なおかつ小学生にもわかる展示をどのように実現していくかはとても悩ましい。その中で科学館の先生方がいろいろ工夫されていることは、すそ野を広げていくことにつながっていると思う。そのような対策の1つとして、展示を見て困っている子供たちなどに解説の補助をするような方の配置は予定しているのか。

○沼尾指導主事

インストラクターとして、大学生を中心に解説員を配置する。専門としてやっている人達ではないが、あらかじめこちらで用意した解説書を読んでいただき、できることはその場で解説してもらい、難しいときには我々を呼んでもらい、我々が適宜解説をする。

(3) 仙台市科学館リニューアルについて

○秋山指導主事から説明

(質問等)

○河野委員

リニューアルにより4階展示は素晴らしいものになり、大変良かったと思う。宮城県の自然、特に仙台市を中心にした自然を、あの空間にただでいろいろなことを感じることができる。これからそれぞれの展示についてさらに掘り下げて情報を出すこともあるかと思うが、例えばドローンの映像で広瀬川の水が流れているシーンがあるが、どれくらいの水量がどれくらいの高度差で海まで流れているか、その中でどれくらいの水が我々の生活の中で使われているかなどの、定量的な情報等もあると、ただ水が流れているだけではないということを感じてもらえるのではないかなと思う。そのような情報を少しずつ加えていくと、ただ景色を楽しむだけではなく、科学に結び付けられるきっかけになるのではないかなと思う。

○宮崎主任指導主事

広瀬川をはじめ他の展示物に関しても、どのような方法で掲示していくか考えていきたい。

○長島会長

この協議会の委員である先生方はそれぞれに専門性があるので、協力できるところでアイデアを提供しあうこともこの会議の役割でもあると思う。また、河野委員の指摘のとおり、定量化という情報を加えていくことは科学の1つの方向性としてとても大事なことだと思うので、協力できるところは協力して進めていければと思

う。

○高田委員

リニューアル後の4階展示室に入って、同じ空間と思えないくらい本当に明るく広くなり、外の景色も一緒に楽しめる空間になった。

2点気になった点として、1点目は、化石もたくさん並んでいるが、それぞれが何を主張したいのか、それぞれ1つ1つ見るには子供目線だと名前や学名が書いてあるだけでそれが生態系として昔どういう形をしていて、どのようにつながっているのかまで理解するのは難しいかと感じる。東北大学総合学術博物館とは違った、科学館なりの展示の仕方があるのではと思った。科学館はたくさん所蔵しているので、現在の展示はまず最初のおひろめであり、随時展示物を交換しながらいつ来ても違うものが見られるのかなと思っている。

もう1点は、真ん中のところに木のちょっと高いスペースがあり、そこから降りるスロープと段差のところが、ちょっと落ちそうになった。ハンディキャップを持っている方もいるので、見直していただけるといいかと思う。

○秋山指導主事

館内で相談しながら検討していく。

○宮崎主任指導主事

展示物に関してはこれで完成というわけではないので、ご意見を伺いながら検討していきたい。

○長島会長

この会議の趣旨として、3階の展示についても委員の皆様より有益なアドバイスをいただければと思う。先ほどのスロープの件のように、3階リニューアルにあたっては配慮するなど、財政的な面もあるため、全てをかなえられるわけではないが、取捨選択しながら反映させてより良いものにしていければいいのではないかと思う。

(4) その他

○加藤副館長

高田委員から質問のあった学校団体の他県からの割合について回答させていただく。

令和4年度分が最新のデータとなっており、1番大きいのは宮城県であり50%を超えている。2番目が福島県で30%弱、続いて岩手県が10%弱、山形県3%、秋田県2%、青森県1%となっている。人数では、宮城県が12,369人、福島県が6,040人、岩手県2,216人、山形県797人、秋田県461人、青森県417人となっている。

8 事務連絡

次の開催日程については、今回と同様にメールで日程調整させていただく。

9 閉会

令和 6 年 6 月 26 日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長

長島康雄

仙台市科学館協議会 委員

柳田孝子